

2025年度 SYLLABUS 【博士後期課程】

授業科目名	演習 I
担当教員名	河野秀孝
科目 目 の テ ー マ	本演習は、博士論文執筆準備のためのものでもありと考えてください。まず論文の課題を設定し、論理的思考の枠組みとしてのモデルを構築してもらいます。 次に、モデルから論理的に導出された仮説の検証をどのように行うかを考えてもらいます。仮説が自分の思い込みでなく、目的とした対象の本質を浮き彫りにしているかを、どのようなデータでもって、どのような方法で、計量的に検証するかを考えてもらいます。 また、論理の説得力の観点から、仮説の有効性の検証がいかに重要であることを認識してもらいます。また、推敲したモデルからの仮説の有効性が確認されるまで、モデルの枠組みの変更、計量モデルの変更、データの変更などを考えてもらいます。詳細は下記に示すことにします。
科目 目 内 容 ・ 方 法 等	論文執筆にあたっては、まず、論文のテーマが問題であり、よく絞り込まれていることです。そして、どのような視点から論理の枠組み（モデル）を構築し、どのような方法で仮説の検証をするかを考えてもらいます。特に、以下のことを検討してもらいます。 1. 日ごろの経済現象を考え、何が分析の対象になりえるか。 2. テーマを絞り込むために関係ある先行研究・文献を読みながら、どこまで研究されていて、どこが未だなされていないのかを明確にするため、問題背景の論文系譜を調べる。 3. テーマを絞り込み、過去の論文との比較で、執筆論文の位置付け、視点の違いを明確にする。 4. 独自の視点を反映させた論理体系を構築し、検証可能な仮説を導く。 5. 必要なデータを収集し、計量的に仮説の検証を試みる。 検証が棄却されれば、ステップ4に戻り、論理体系を再構築し、仮説の検証をする。
評価方法及び評価基準： A 評価： 授業内容を応用できるのみならず、批判的にとらえることを含めて、当該理解をさらに発展させられること。80 点以上。 B 評価： 授業内容を応用できるのみならず、批判的にとらえることを含めて、当該理解をさらに発展させられること。70~79点。 C 評価： 授業内容について、概ね理解していること。60~69点。 F 評価： 授業内容の理解度が不十分。60 点未満。	